



第26回被爆者と区民の交流セミナー
ヒロシマ・ナガサキ70年をこえて



☆第1部 証言☆

松本 浩一 さん（広島・被爆三世）

「被爆三世として思うこと」

☆第2部 講演☆

高校生が被爆証言を絵に描く取り組み

—— その人間的意味

やす つぐ
小倉 康嗣 さん
（立教大学 社会学部准教授）



入場無料

手話通訳つき！

日時：平成28年2月27日（土）

13:30～16:30（13:00 開場）

会場：杉並区立高円寺障害者交流館1階集会室

杉並区高円寺南 2-24-18 TEL 03-5306-2627

地下鉄丸の内線 新高円寺駅より徒歩 6 分

JR 高円寺駅より徒歩 8 分

共催：杉並光友会（杉並原爆被爆者の会）・杉並区

後援：杉並区教育委員会 杉並区障害者団体連合会

お問合せ先：杉並光友会 原田 03-3314-4661

《講演内容》

広島市立基町高校で、2007年より行われている被爆証言を絵に描く取組み。小倉氏は、高校生、卒業生、顧問の先生、被爆者の方々にインタビュー調査を続けています。その調査の中で、小倉氏が感じ・考えたこと、調査をまとめた文を読んだ伝承者養成第一期生の方との交流、8月6日の深夜の広島平和公園慰霊碑前で出会った若者たち、そして本人の原体験を交えながら、非被爆者にとっての〈原爆という経験〉の人間的意味について考えていきます。



小倉 康嗣（おぐら やすつぐ）さん

立教大学社会学部准教授。1968年生まれ。慶應義塾大学法学部卒業後、厚生省厚生事務官を辞し、社会学の道へ。慶應義塾大学大学院社会学研究科博士課程修了。博士（社会学）。ライフストーリー研究をベースに、「生の社会学」を基本的テーマとして調査研究をしている。特に受苦的経験（苦しみからの経験）から生成されていく生とそれが契機となって社会を変えていく局面に関心を寄せてきた。主著に『高齢化社会と日本人の生き方——岐路に立つ現代中年のライフストーリー』（単著）、『被爆者調査を読む——ヒロシマ・ナガサキの継承』（共著）、『感情を生きる——パフォーマティブ社会学へ』（共著）慶應大学出版社より。

証言「ヒロシマ・ナガサキを継承して」

証言者 松本 浩一（まつもと こういち）さん 演題「被爆三世として思うこと」

☆プロフィール☆

広島県出身の35歳。2009年より杉並光友会幹事。杉並光友会ニュースの作成やセミナーのポスター・チラシ作成等を担当。父方の祖母が入市被爆。被爆三世。

杉並区立高円寺障害者交流館

杉並区高円寺南 2-24-18
TEL 03-5306-2627

☆JR 高円寺駅より

駅南口から右手に見える大通りを南下、坂を下り、その後坂を少し上ると緑色のガラス張りの建物が見えます。それが、高円寺障害者交流館です。

☆地下鉄丸の内線 新高円寺駅より

地上に出ますと目の前に青梅街道が見えます。青梅街道を中野・新宿方面に。交差点を左、しばらくまっすぐ行き坂を下ります。坂の途中に緑色のガラス張りの建物が見えます。それが、高円寺障害者交流館です。

